



瀬田歌八 権谷磯丸

権谷磯丸は、明和元年渥美半島の先端伊良湖崎の漁師の家に生まれ85才の長寿をもって伊良湖の浜に眠った漁夫歌人である。

磯丸は31才の時父を亡くし、母は長い間病床についたままであった。孝心深い磯丸は、母のために水垢離に体を清め伊良湖明神に毎日深参りを続け、一意他念なく祈願すること3ケ年、そのかいあって母は終に全快した。

この時伊良湖明神で、旅人から和歌の話を聞いたのがきっかけとなって、目にふれるもの、心に感じたもの悉く三十一文字で現わそうと努め、無筆の歌よみとして広く知られるようになった。

無筆の歌よみのうわさは、隣村に住む戸田淡路守の郡奉行井本彦馬常陰の耳に入り本格的な和歌の指導を受けた。更に吉田の女流歌人林織江、京都の堂上歌人芝山大納言持豊等の知遇を得、磯丸の歌の世界は増々広がっていった。

磯丸の歌の中で「まじないの歌」は大変に数多く読まれているが、この「まじないの歌」は磯丸の和歌の特質をなすものであり「歌の徳を体得した奇霊しき翁」として広く庶民から信仰せられている。

天真爛漫にして純粋無垢、至誠一貫の磯丸の人柄は、まさに「天地のなしたるまま」の姿であり、遠近、階級を起えて多くの人々に愛され親しまれた所以であろう。

諸国遍歴の折詠んだ詠草は、文化11年から弘化3年までに48冊のものが現存しており、磯丸が詠んだ歌は実に数万首にのぼる。

また磯丸歌碑は県内だけでも26基確認されており、磯丸の人柄と信仰を示している。

渥美町郷土資料館 関田 善 広

目 次

- 昭和61年度愛知県博物館協会総会報告…………… 2
- 新規加盟館紹介…………… 4

昭和61年度 愛知県博物館協会総会報告

昭和61年度総会は、5月23日半田市桐ヶ丘にある半田市立博物館で、38館62名が参加して開催されましたので、以下概略御報告いたします。

会長挨拶……日之下県陶磁資料館々長

開催館挨拶…石田半田市教育長

来賓挨拶……加藤県文化財課主査

表彰(功労賞) 前勅日本モンキーセンター

学芸部長 広瀬 鎮

(財)博物館明治村

係 長 勝俣 光盛

新規加盟館紹介

名古屋市美術館建設準備室

尾西市歴史民俗資料館

長久手町郷土資料室 (以上3館)

日之下県協会々長よりは、愛博協の過去と現状についての説明があり、約70館に近い協会加盟館の運営について加盟各館の協力と理解を得て、これからの協会活動をより一層充実したものにしたい旨の挨拶があった。

半田市の石田教育長よりは、半田市立博物館の建設経過と今後の運営に関して、協会加盟館各立の御協力を得たい旨の挨拶があった。

来賓として御参加の加藤県文化財課主査よりは、臨教審の答申にもある通り、生涯教育の必要性は年々増加して居り、博物館の役割はこれにともなって一層重要になって来ると思われる。県下の博物館関係に広く協力を求め、県としてもその充実に努力してゆきたい旨の挨拶があった。



次に第9回表彰が行われ、本年度は功労賞として2名が受賞した。

前(財)日本モンキーセンター学芸部長広瀬鎮氏と

(財)博物館明治村係長の勝俣光盛氏で、広瀬氏は御承知の通り、愛博協発足当時より深い係りを持ち、協会活動の中軸として各事実の実施に活躍された方で、今度大学へ転任される事となり、長年協会に対する功労による受賞である。又勝間田氏は、長年博物館明治村の施設管理担当者として、その管理運営にあたられ、特に施設管理と環境保全に努力された功労によるものである。

受賞後、広瀬氏よりは、博物館現場における仕事ではなくなったが、大学に於て博物館の人材育成の仕事に係る事になったので、今後共協会各位の御協力を願い度く、長年現場でのお付き合いに対し御礼申し上げます。との事であった。

勝俣氏よりは、明治村という屋外展示場に於て、自然との調和を如何にマッチして行くか、地道な努力に対する施設管理員全員に受賞されたものと喜んで居ります。との事であった。



次に新規加盟館の紹介があり、昭和61年度は、名古屋市美術館建設準備室、尾西市歴史民俗資料館、長久手町郷土資料室の3館が紹介され、各加盟館担当者より、自館の概要等の説明挨拶があった。

次に議題に移り、

- (1)昭和60年度事業報告及び決算報告について、事務局より説明があり、承認された。
- (2)役員改選について、今年度役員改選にあたり、別室にて理事会を開催して、常滑市民俗資料館の代りに、半田市立博物館が、他の理事館は留任、又会長、副会長館も留任と決り、総会に上程されて承認された。
- (3)昭和61年度事業計画及び予算案について、事務局より説明があり、承認された。
- (4)その他

昭和62年度会費改定について、事務局より昭和58年度よりすえおかれている現行会費(1口6,000円)は62年度より、協会事業

充実のため1口8,000円に改定するというもので、参加加盟館より特に意見なく了承された。
(昭和62年度規約一部変更予定)



○討論会 ―昭和61年度各館の抱負と愛博協にのぞむもの―

座長―海老沢実行委員

座長より愛博協事業等について加盟館からの御意見を承りたい旨意見がある。

ヨコタ南方民族美術館より、現在の理事館選出は協会加盟館の地域性、設置者別を考慮してなされているとは思いますが、各理事が地域の加盟館それぞれが持っている問題点等を掌握しかねていると思われる。又事業内容におけるガイドブック「愛知の博物館」の改訂をカラー化、大版化をしてもよいのではないかと意見が出た。

理事の選出については、公・私、地域性を考えて選出されているが、各理事館が地域の加盟館の状況を今一つ把握しかねている点はあるが、理事館選出の実行委員に、極力訪問をして館の状況及び協会への要望等を聞く機会を多くしたいと思っている。

(山田実行委員)

ガイドブックの件は、先の実行委員会でもカラー化、大版化の話が出たが、他県の協会でも実施されていて、その必要性はあるが、準備期間も必要であり、現行のガイドブック残が少い為、新加盟館を追加して早急に作製の必要性があり、又予算収入に占める割合も大きく、今年度は現行改訂版で実施し、1年間程の準備期間をもって、カラー化、大版化を実施したい。(浅田実行委員)

御園高原自然学習村より、先程のヨコタ南方民族美術館の意見に補足の形で、ガイドブック作製等も理事館(特に実行委員)が各地域の加盟館を訪問し、実状を把握した上で地域の理事会を開きガイドブックの原稿検討や協会事業に現在何が必要であるかを協議してもらえば、協会全体の事業がきめ細く、加盟館の実状に合ったものが実施されると思うので、

今年度は実行委員がぜひ地域の加盟館を訪問してもらいたいと思う。との意見が出た。

この件については御意見の通りで、協会月刊誌「東西南北」において～加盟館見て歩記～を掲載していますが、この担当を各実行委員にお願いして居り、今後もこれを継続し、各館の実状をより詳細に把握してもらおう様考えて居ります。(山田実行委員)

名古屋海洋博物館より、対入館者との関係で、先に協会で作製したガイドマップで美術館・民俗博物館・動物園・科学館・植物園等の館種別の色分けをしたり、利用方法として地域的な1日コース、1泊コース等の案内も必要ではないだろうか。

今年度事業には計上されて居りませんが、大変好評であったガイドマップですので、この意見もふまえて、今後もマップの作製に努力したいと思っておりますし、何か具体的な作製方法も考えられている様です。(海老沢実行委員)

御園高原自然学習村より、座長より協会20年の経過を通して意見を求められましたが、協会発足当初は加盟館格差も少く、共通の話題が多かったが、多くの加盟館があれば当然その中に格差があり、館設立の古い館、館の規模等の大小によってその問題も異なり、次元の高い館もあれば、協会加入間も無い館もあり、概して次元の低い新規加盟館等も参加して益のある事業内容を考えてもらいたいと思う。との意見が出た。

日本モンキーセンターからも同様の意見が出た。

名古屋市科学館より、10年程前の加盟館数と比較すれば、現在2倍近い加盟館があり、それだけ人材も豊富になって来たと思われ、今後も博物館は市場開拓などアイディアを必要とする企画が多くなろうかと思われ、協会も豊富な人材をプレーとした事業方針を将来立てる必要があるのではないだろうか。との意見が出た。

岩田洗心館より、東海地区博物館連絡協議会(通称東海博)の話が出ていましたが、昨年の横須賀市開催の東海博で感じた事です、神奈川県の出席は特に若手の学芸員が多く、彼らは館種に関係無く、特に横須賀地区は14館程で各館の交流が盛んであり、展示替等があると、大挙してその館に出向き、色々な批評を加えてたりして交流を行っている聞いたが、愛知県下でも地域的な研究会等の交流があっても良いのではないかと思います。

一宮市博物館準備室より、来年秋のオープンをめざしている訳ですが、最も心配しているのは入館者の件で、特に公立館は入館者と予算は多少連動して居ると考えねばならず、学芸員の努力とは一面比例しない点もあろうかと思ひ心配している次第です。オープン時には多数の入館者があっても、其の後下

降線をたどっているというのが常と聞いて居り、この下降線をいかに少くし、さらに挽回する方法は何か、オープンを前にして各館の情報を収集しているのが現状である。との意見が出た。

蟹江町歴史民俗資料館より、自館は一地方博物館であり、歴史民俗資料館として色々館運営の構想はあるが、規模・予算の制約があり、このバランスをどの様に進めていくか、研修会等で学んでゆき度く思っている、部門別研修会の内容等計画が具体化されていればお聞きしたい。との意見が出た。

部門別研修会は事業計画の通り5回予定されており、3回は歴史門、2回は美術部門で実施したく思っている、予算を組んでもらっていますが、予算の面でも限度があり、具体計画はまだ立って居ませんが、美術部門は専門分野における学芸員の質向上の為に研修会と、どこの館でも持っている共通した問題点をとらえてみたいと思っております。

尚、美術部門研修会の今年度テーマは「カルチャーセンターと美術館」で検討してみたいと思います。(服部実行委員)

次に歴史系部会に関しては、年3回の実施予定ですが、歴史系の加盟館からは資料の取扱等技術的要望が多く、一度この面での講習会を実施して居りますが、今年度も引き続き実施したいと思っております。今後も加盟館の要望を注意深く見守って、研修会に話してゆきたいと思っております。(浅田実行委員)

渥美町郷土資料館より、内部問題になると思いますが、自館の場合、専門職を居いて無い訳ですが、5～6年を周期として移動があり、専門職は置きたし、5年程の研修経験を持つと内部移動では、せっかくの研修が活されなくなり、将来的にこの面を改善してゆける様考えていますが、又問題点も多い訳です。

名古屋市博物館より、オープンから10年を経過しましたが、問題点はどの館も同じ様な事だと感じて居る訳ですが、入館者問題、特に常設展の再考が必要な時期に入った事を痛感している訳です。

今一つ社会教育との関連性の中で、特に学校教育との連携を強めてゆきたいと思っておりますし、先に意見も出ましたが、郷土史講座等は好評で、カルチャーセンターとの問題も今後考える必要があると思っておりますが、博物館は展示を通して入館者を待つだけでなく、外へ出向いて博物館への道を開く必要があらうと思っております。

新規加盟館紹介

長久手町郷土資料室

NAGAKUE HISTORICAL MUSEUM

- 所在地 〒480-11 愛知郡長久手町大字長湫字 仏ヶ根5
電話<05616>2-6230
- 交通 地下鉄藤ヶ丘駅下車、名鉄バス長久手車庫行き、古戦場南下車徒歩2分
- 沿革・設立 長久手合戦400年記念事業として昭和60年3月17日にオープン。
国指定史跡長久手古戦場の近くに建設された勤労者野外活動施設の中に合戦関係の資料を中心に展示したものである。
- 施設 鉄筋コンクリート造2F建一部地階延478㎡、展示室140㎡(2室)会議室50㎡(1室)和弓場116㎡
- 開館 午前9時～午後5時
休館日 毎週月曜日/祝日の翌日/年末年始/資料整理日

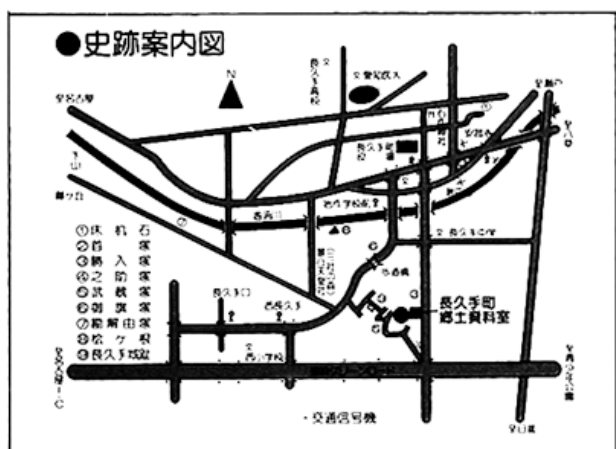


観覧料 無料

特色 本施設は、国指定史跡長久手古戦場に隣接し、この史跡を知る上の資料や歴史上の意義を説明しています。

この施設の南には、都市計画公園・古戦場公園があり、戦いの行われた地形をこの公園の中に再現してあります。

この他、施設内には、郷土の文化財である「棒の手」や「馬の塔」といった風俗に関するものや、古墳などの出土物などが展示されており、長久手町の歴史を知る上でのインフォメーションセンターとなっています。



名古屋市美術館 (仮称)

NAGOYA CITY ART MUSEUM

建設場所 名古屋市中区栄二丁目 白川公園内
 準備事務所 〒461 名古屋市東区徳川町1001番地
 東図書館内 (教育委員会文化課)
 電話(052)936-0649

交通 基幹バス新出来町線「新出来」下車 徒歩5分

沿革 「文化の香り高いまち」を実現するための主要施設として、美術鑑賞の場と学習の機会を提供し、地域社会の美術活動の振興と芸術文化の発展に寄与することを目的とする。

昭和58年1月 美術館調査委員会「基本構想」答申

同 59年3月 基本設計完了

同 60年1月 実施設計完了

同 60年7月 建築着工 (昭和62年7月竣工予定)

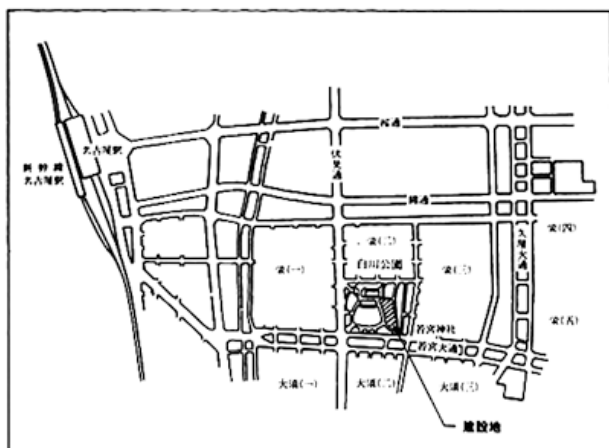
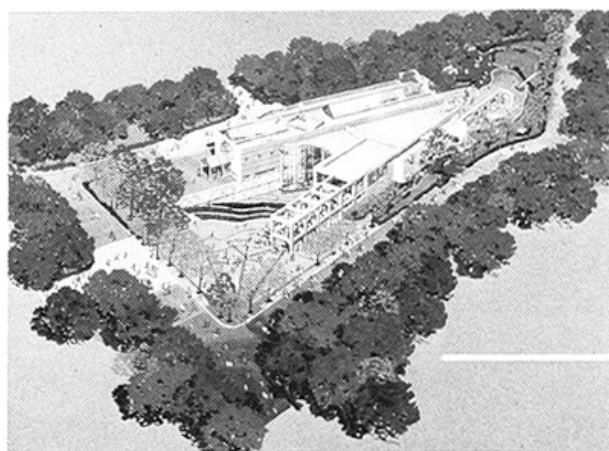
開館予定 昭和63年春

施設 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上2階

建築延床面積 7,125¹⁹m²

常設・企画展示室、講堂、図書室、ビデオ・コーナー、コーヒーショップ、ミュージアムショップ等

- 特色
- ①常設展示…名古屋文化圏にゆかりのある作家を中心として、近代・現代のすぐれた作品 (日本画・洋画・版画・彫刻など) を収集し、展示する。
 - ②企画展示…国際的なものから地元の美術活動にかかわるものまで、多様性に富む美術の世界をテーマ設定し、わかりやすく紹介する。
 - ③教育普及…美術に関連する講演会、映画会を開催するとともに、ビデオコーナー、図書室を公開し、美術情報や学習の機会を提供する。
 - ④調査研究…常設・企画展示として発表するほか、カタログ、研究紀要等出版物を刊行しその成果を公表する。



尾西市歴史民俗資料館

所在地 〒494 尾西市起字下町211
電話<0586>62-9711

交通 名鉄新一宮駅より名鉄バス起行き
「起」停留所下車、徒歩5分

沿革 尾西市内の祖先から伝承された文化遺産を
保存し、展示しようという考えから昭和49
年5月に尾西市民俗資料室、昭和58年5月
には中山道脇往還美濃路起宿記念館を開設
した。

その後、市内の一層の発展にともない、
文化遺産の収集、保存をより充実させ、展
示を中心とした普及教育活動を促進し、調
査、研究を行なう目的から、起宿記念館隣
接地に本館を新たに建設、既設両館を発展
的統合し、昭和61年4月26日歴史民俗資料
館を開館した。

設立 昭和61年4月26日開館

施設 本館 鉄筋コンクリート造2階建
延床面積1,291㎡
別館 木造平屋建一部2階建
延床面積376㎡

開館 午前9時～午後4時30分
休館日…月曜日、祝日、年末年始（12月28
日～1月5日）

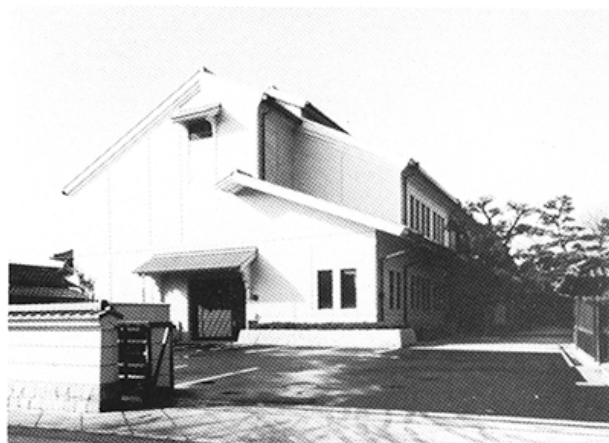
入場料 無料

特色 江戸時代、美濃路の宿場町として栄え、
その後織物の町へと変化発展してきた今日
の尾西市域の歴史を、1.「江戸のある町場」
2.「渡し場のある宿場」3.「機音のする町
で」4.「伊吹おろしのもと土にまみれて」
の4つのテーマのもと展示している。

具体的には、

- 1、木曾川舟運の荷物の集積地としてに
ぎわった江戸（河岸）の薪炭問屋の復
元家屋と人々の使用した生活道具
- 2、起宿の町並と船橋の縮小復元模型、
大名の渡船に用いた屋形、約3,000点
に上る本陣、脇本陣関係文書の一部な
ど
- 3、毛織物産業を支えた町の織物工場の
縮小復元模型、機織りの道具、織物製
品見本帳や、当時の世相を示す広告、
チラシなど
- 4、村、農家の生活道具、食事、起の上
人形、提灯など

これらの展示品にレーザーディスク、オ
ートスライドの映像展示を加え、この地方
の歴史と生活の体験的な理解を試みている。
また、年二回以上の特別展を行なう。



「愛知の博物館」No.41

発行日 昭和61年7月1日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

<0561> 84-7474